

# 院内感染対策の地域連携と 臨床検査技師の役割

浅香 敏之<sup>†</sup>第67回国立病院総合医学会  
(平成25年11月9日 於金沢)

IRYO Vol. 68 No. 10 (513-515) 2014

## 要旨

院内感染対策が注目され、2012年度より感染防止対策加算1、2の連携、加算1同士の相互評価が始まった。院内感染は院内だけでなく地域でコントロールする考えが普及しつつある。感染対策加算の連携だけではなく、地域で自主的な連携、行政が主導の地域連携もある。臨床検査技師は検査データを最初に報告する立場なので、医師、看護師、薬剤師とともに感染対策チーム（Infection Control Team：ICT）としてアウトブレイクをいち早く察知し、その役割の重要性も増している。地域連携を進めていくと、評価した病院では感染対策マニュアル、感染症検査の結果報告までの体制（外部委託を含む）、検査データを感染対策に活用するときに、多くの指摘事項がみつきり、一部改善がみられた。さまざまな連携を通じ、他院の実情を知ることができ、当金沢医療センターならびに多くの施設で、院内感染マニュアル等感染対策を見直す契機になったのではないかといえる。感染対策の地域連携はきわめて重要で、多くの課題があるが、今後も必要である。その中で臨床検査技師は病院のICTチームや地域での感染対策で役割を發揮していきたいと考える。

キーワード 院内感染、感染対策チーム、地域連携

## はじめに

院内感染対策がますます注目される昨今、医師、看護師、薬剤師とともに臨床検査技師の役割の重要性も増している。2012年度診療報酬改定にともない、感染防止対策加算1、2での連携、加算1同士の相互評価が始まり感染対策は院内だけでなく、地域で行うという考え方が始まった。臨床検査技師は最初に検査データを報告する立場なので、アウトブレイクをいち早く察知し情報発信する必要がある。また、日

常の検査データをもとに各種集計し、院内ラウンド等を感染対策チーム（Infection Control Team：ICT）で実際に行っている。上記加算基準の臨床検査技師とは、3年以上の病院勤務を持つ専任の臨床検査技師であればよく、細菌検査は外部委託でも問題はない。

院内感染対策担当の臨床検査技師の役割は、通常業務で直接塗抹検査（グラム染色、チールネルゼン染色）、一般細菌・抗酸菌の同定感受性、感染症関連検査（寄生虫、ウイルス、迅速検査ほか）、針刺

国立病院機構金沢医療センター臨床検査科 <sup>†</sup>臨床検査技師  
(平成26年3月4日受付、平成26年9月19日受理)

Regional Cooperation of Hospital Infection Control and the Role of Medical Technologist  
Toshiyuki Asaka, NHO Kanazawa Medical Center

(Received Mar. 4, 2014, Accepted Sep. 19, 2014)

Key Words: hospital-acquired infection, infection control team, regional cooperation